

定例記者会見

日時 令和6年8月28日(水)

午前10時から

場所 市役所3階大会議室

1 令和6年度 9 月補正予算(案)の概要・主要事業について(資料 1)

9月補正予算案は、観光資源を活用した宿泊施設の整備支援などの「にぎわいのあるまちづくり」や、困りごとを抱える家庭の専門的な支援や給食費の支援などの「地域全体でこども・子育てを応援」、6月の大雨により被災した箇所の工事などの「災害の早期復旧と安全・安心なまちづくり」などに必要な予算を計上しました。

一般会計の補正額は、6億8,026万5千円で、昨年度の9月補正予算に比べ、8,095万4千円の減です。国・県の交付金や財源措置率が高い地方債を活用し、財政調整基金に積み立て、取り組み体制を維持します。なお、この秋に予定されている国の経済対策に関する予算は、現時点では明らかではないため、今回は計上していません。内容が明らかになった段階で、必要な対策をし、早急に対応します。

(1)地域交通対策事業【白山地区自家用有償旅客運送実証運行】

現在、坂口地区で自家用有償旅客運送の実証運行を実施していますが、白山地区で新たに自家用有償旅客運送を実証運行するための費用です。白山地区も非常に地域の結びつきが強い地区ですが、公共交通機関に関しては厳しい状況です。自家用有償旅客運送を検討したいと地元からの要請を受け協議を進め、来年1月から実証運行に関する具体的な申し出があり補正を行います。公共交通ネットワークについては、今後も路線バス、市民バス、デマンド交通、ライドシェアなど、市全体でその地域に応じた最適な形でネットワークの整備、形成を進めていきます。

(2)観光推進事業【宿泊施設整備支援】

県が当初予算で追加した「多様な宿泊施設整備支援事業」の新規開業枠について、民間企業者の方から、今立エリアの中で「越前和紙と産地の歴史を体感できる」というコンセプトをもとに、古民家を活用したホテル、宿泊施設を整備するという応募があったことを受け、補正します。

整備場所は、岩本町の古民家です。作りを活かしながら、和紙や工芸などを取り込んだ3つの客室を整備する予定です。地元食材の活用や、工芸体験などのプランを整備し、この地域の観光資源となる様々なものを活用した、インバウンドを含めた観光環境を整備します。越前和紙の産地の魅力を体感できる施設を目指しており、来年4月にオープン予定です。予算は、県費の 1,000 万を含め、併せて 2,000 万円です。

(3)駐車場管理事業【越前たけふ駅東駐車場誘導員配置・除雪対策】

北陸新幹線越前たけふ駅の東に600台の無料駐車場を用意しています。開業当初はイベント

が重なったこともあり、駐車場があふれることもありました。しかしその後、道の駅と新幹線利用者を仕分けして誘導するなどの工夫をして、現在、あふれることはありません。おおむね、本来のパーク&ランド駐車場の目的を達成しつつ、有効に活用されています。

今後の混雑対策として、誘導員を配置するほか、除雪対策の変更や消雪設備整備に向けた調査設計を行います。土日や連休などには利用者が多いので、繁忙期の誘導員の配置について予算をつけています。夜間、駐車場が空い際に機械除雪を予定していましたが、車を数日置いて行く方も多く、また、駐車場に集合し、1台に乗って旅行する、など様々なケースがあります。駐車している車が多くても除雪できる体制にするため、設置自体は翌年度ですが、消雪設備を設置するための準備を今年度行います。

(4) 児童相談事業【困りごとを抱える家庭をより専門的に支援】

家や学校に居場所のない子どもや、家庭での困りごとや課題を抱えている方の居場所を作り、応援する仕組みを作ります。本格的には、事業所や社会福祉協議会など関係機関が協力する共同体である「コンソーシアム」を作る予定で、今年度はその準備を行います。

本市において、家庭環境に課題があって保護や支援が必要な生徒は、200人ほどいると把握しています。こども家庭センターでは、様々なご相談を受けていますが、やはり解決策がないといけません。昨年度開催した、官民委員研究会で民間の方との勉強会の中で、「相談を受けたが、充分サポートできない」といった状況があると聞きました。一陽や社会福祉協議会でも個別に相談を行っていますが、連携しながら、かつ、積極的なサポートが必要だと感じています。

来年度から本格的にスタートさせて、「コンソーシアム」を形成し、居場所づくり、適切な親子関係支援、訪問による家事・育児支援、緊急一時的なこどもの養育を行う包括的な支援体制を実施できるようになります。相談を受けたあと、実際に家庭の状況に応じたサポート体制のために必要な施設改修を今年度中に行います。また、専門人材を育成するための予算を準備しています。

(5) 給食費高騰対策特別支援事業

食材費の高騰が続く中、市独自に高騰分 14%相当を支援するものです。学校給食については、今年の 3 月末に、福井県学校給食会から主食と牛乳について、値上げの通知がありました。調達工夫を行うことで、現行の給食費の範囲内でやっていましたが、共同購入している食材についても、昨年度と比べても価格が高騰する予定です。給食を作っておられる方々の創意工夫で、栄養バランスのとれたおいしい給食が提供されており、特に越前市の場合は、小学校すべてが自校方式で提供していますが、2学期以降、高騰分を補正します。当初予算以降に生じた値上がり分、消費者物価指数の「生鮮食品」の上昇分などを参考にし、14%を新たに支援します。財源として、一般財源を組んでいますが、国の経済対策で臨時交付金が交付される可能性もあり、その場合は、国の交付金を活用することもあります。

(6) 小学校施設営繕事業【バリアフリー改修工事にかかる実施設計】

大虫小学校にエレベーターおよび多目的トイレを設置するための実施設計を行います。これまで、各学校のバリアフリー化については、それぞれの節目で整備をしてきました。今回、大虫小学

校については、進行性の病気をお持ちのお子さんが通学していますが、現状では大虫小学校にはエレベーターがなく、多目的トイレは体育館にあります。校舎から離れています。今後、症状が進行しても、学校で勉強ができるよう整備します。

大虫小学校での整備が完了すると、市内7カ所の中学校区のうち、普通教室が1階にある白山小の第5中学校区を除き、全ての中学校区にエレベーターが設置されることになります。国もバリアフリー法の改正により、学校のバリアフリー化を進めており、本市においても、障がいの有無にかかわらず、ともに学ぶことが出来ることが必要だと思います。今後も施設の大規模改修や児童・生徒の進学タイミングに合わせ整備を実施していく必要があります。

(7) 農作物鳥獣害防止対策推進事業【ドローン導入支援】

クマを見つけるための赤外線カメラ付きドローンの購入を支援するものです。今年度は多くのクマが目撃されており、通報があった場合、担当職員が2人体制で1～2時間程度の現地パトロールを実施しています。しかし、茂みに隠れていると見つけることが難しく、地域の方々から「なんとかならないのか」という声をいただくことがあります。居場所がわかれば対応がしやすいため、ドローンの赤外線カメラにより早期発見を狙います。クマの位置確認により住民に安心感を与え、職員にとっても効率的に対策ができるよう、鳥獣対策協議会に対し赤外線カメラ付きドローン購入の支援を行います。

(8) 農林業施設災害復旧費

6月追加補正時には、農地31カ所、農業施設15カ所、林業施設8カ所、治山施設12カ所、合わせて66カ所が被災し、農地7カ所の調査設計、林業施設1カ所、治山施設3カ所の工事費を予算化しました。その後の調査や地元との協議により、全体で58カ所の工事を行うこととし、6月追加補正で実施した4箇所を除いた54箇所（農地27カ所、農業施設12カ所、林業施設8カ所、治山施設7カ所）について工事費を計上します。工事費全体としては、5,992万4千円ですが、当初予算において農地災害復旧費で100万円を計上していたため、これを差し引いた5,892万4千円を計上しています。

最後に、6月の大雨で法面が崩落した村国山の市道を復旧します。これまで地質調査や復旧の工法の検討を行ってきましたが、今回復旧工事の詳細設計が出来たことから、工事費を補正します。

2 ウェルビーイング指標について

「総合計画2023」におけるふるさとづくりの基本理念として「幸せを実感できるふるさと ～ウェルビーイングの越前市～」を掲げ、その実現に向けた政策を展開しています。特に、市民が直面する課題の解決や、活躍できる舞台づくりや居場所づくりに取り組んでいます。市民のウェルビーイングを把握する方法を作り、政策のサイクルに反映し、どういう政策をした時にウェルビーイングが高まったのかを効果測定するために作りました。

今回、福井県立大学の高野翔先生をはじめとする、ウェルビーイングに詳しい専門家にも集まっていたいて、指標の検討をしてきました。

今回は大きく2つの軸で考えています。1軸目が、市民へのアンケート調査にもとづく主観的な指標で、これを「幸せ実感指標」と呼びます。2軸目が、市民のウェルビーイングとの関係性が高いと考えられる統計データ、これは市の独自データも含めたものなどを引用した客観的な指標で、これを「政策推進指標」と呼びます。

別表に、具体的な項目を記載していますが、各項目を総合計画の3つの目指す姿(「10万人の元気と活力」「100年人生の幸福実感」「1000年未来につなぐふるさとづくり」)に分類しています。項目がありすぎても把握しきれないので、できるだけシンプルな項目構成と表現となるよう留意しています。

初年度となる令和6年度の調査結果ですが、「幸せ実感指標」については、今年7月にアンケート調査を実施しました。5段階評価による回答の平均値を記載しています。3を超え5に近づくにつれ満足している、と考え、3以下のものは、厳しい感触をお持ちだなと感じています。また、「政策推進指標」については、最新で把握できる数値を記載しています。

「幸福度ランキング」などは、ほかの自治体との比較に大きな狙いがあり、福井県の幸福度はランキング1位となっていますが、全国で行う毎年の国の調査というところには限界があると考えます。他との比較ではなく、自らの時系列的な変化をとらえようとしているところが特徴です。

また、今後、各事業がどういうウェルビーイングにつながっていくか、と十分に議論していく必要があります。事業が終わってからもどのような効果があったか十分に検証しながら進めていきます。項目についても、固定するわけではなく、これをベースに新しい数字が出てくることもあります。アンケートの取り方を工夫するなど柔軟に対応していき、市政の幸福実現のために役立つものとして使っていきます。

3 「手のひら市役所」の実現に向けて

本年度から、『市行財政システム改革プラン 2024 チャレンジ・越前』に基づき、“市民が行かなくてもスマホやタブレットなどで用事を済ますことができる市役所”「手のひら市役所」の実現に向けてチャレンジしています。

順次、オンライン申請サービスを追加し、令和8年度末には、市ホームページ掲載の全ての手続き(約470件)について、これまでの紙での申請に加えて、オンライン申請も選択可能な状態を目指します。

8月1日には、子どもが生まれたときの手続きの一つである「子ども医療費受給資格認定申請」の手続きをオンライン化しました。これまでは、出生届提出後、子どもの保険資格が登録されてから(約2週間後)再度、市役所での手続きが必要でしたが、オンライン化により、今後は、自宅で手続きができるようになりました。

今後も様々なものをオンライン化し、市役所に用事がある場合は、「市役所へ行く」ではなく、「スマホで済ます」ことも選択できるよう、仕組みを充実させていきます。

また、その一例として「軽自動車税の納付確認」のオンライン化を紹介します。これまで車検の継続検査の際に必要な、軽自動車税の納税証明書は、令和5年1月から全国で運用が開始された、軽自動車税納付確認システム(軽 JNKS(けいジェンクス))をチェックすることによって、軽三輪、軽四輪車については、納税証明書の提示が原則不要でした。しかし、このシステムは納税者

やディーラーが直接見ることはできません。そのため、事前に納税状況を確認したいときには、市役所で納税証明書を取るか、電話で確認する手間が発生していました。

この度、スマートフォンやパソコンで納税を確認できるシステムを、職員が独自に開発し、10月から公開します。入力画面に、車両番号と車台番号の下4桁、メールアドレスを入力するだけで、納付状況をメールで自動回答するというものです。個人情報やプライバシーに配慮したものです。これにより納税確認のための来庁が不要になり、事務効率化や経費節減、ペーパーレス化の促進などのメリットが期待できます。

4 「シン・町衆」活動支援プロジェクト

「まちづくり」というのは、田舎まちでは「祭り」を担う町内会の方々がまちの活力や元気を満たしています。越これまでも地域活動されている方々がいますが、これからの新しいまちづくりを担う人たちのネットワークを作りたいと考えています。近年、まちなかエリアを中心にサウナ専門店やゲストハウスなど、新規出店が相次いでいるほか、若者の中には新しいことをやりたい、という声も聞かれています。

そういった若者のクリエイティブ活動を後押しするために、市内デザイナーなどの有志が「ディグナーエチゼン」という団体も昨年発足させ活動しています。元々の町衆の方がいて、そういった方全体のネットワークを図り、新規開業したい事業者の方や若者、かつて担っていたものを盛り上げたいと思っている皆さんをサポートして、地域の活力を生み出したいという狙いです。

具体的には、まちなか等に新規出店された事業者の方や、まちづくりに興味関心のある方のネットワークづくりをまちづくり武生などの事業者とともに行っていきます。また、皆さんがやりたいことをどうしたら実現できるのか、市としてどのように応援できるのかを支援する職員を用意し、自らまちづくりに関するアイデアを広く伺い、イベントや活動の場づくりなどへの支援を検討していきます。

また、将来的に起業に関心がある若者に対して、起業マインドやノウハウを学ぶ連続講座「アイデア・イノベーション・ハブえちぜん」を開催し、将来のUターンや地元定着を目指していきます。こうしたことが、10万人の元気と活力の実現につながり、千年未来のふるさとをつなぐ地域の活動に結び付くと考えており、広く参加を呼び掛けるところです。

5 紫式部プロジェクト

5-1 認知度向上と観光誘客について(中間報告)

大河ドラマ「光る君へ」の放送が続いていますが、プロジェクトを立ち上げたのは、令和4年の4月で、2年以上が経ちました。決定直後からNHKの関係者に越前の情報を提供したり、現地に来ていただいたりと、様々な働きかけの結果、大河ドラマでは越前編が5回放送され、第31回では越前和紙に源氏物語を書き始める大きなきっかけになった様子が描かれました。こうしたことにより、多くの人が「越前」という言葉に触れることとなったのではないかと考えます。大河ドラマも、おそらく1千万人以上の方が見ており、また北陸新幹線効果などにより紫式部関連の施設では、約28万人の観光客が増加しており、15億円の観光消費が生まれています。

また、大河ドラマ以外の関連番組や出演者によるSNSの投稿などにより、約25億円の広告換算

効果が表れています。同規模の効果を出すには数十億円規模の費用が必要だと考えます。この効果をさらに高めていきたいと思っております。

5-2 「紫式部の旅」再現行列 見学旅行ツアーの実施について

紫式部の旅を10月18日から20日まで開催し、紫式部と父為時が、都から越前国府へ通った旅を再現します。

この再現行列への参加者を7月1日から8月20日まで募集した結果、募集人数114人に対し、全国から389人の応募がありました。今後、協議会で配役の決定を行い、全体説明会や練習会を開催し、本番に向け準備を進めていきます。

協議会では、ツアーも実施します。宇治市、大津市、敦賀市、南越前町、そして越前市でそれぞれセレモニーを開催します。再現する行列に同行し、行列や儀式の見学、ゆかりの地の見学を行う旅行ツアーを、8月23日から募集しており、併せて10月20日の越前市内での行列にあわせ開催する「越前パレード」へ参加する団体の募集も行います。

紫式部や父為時が辿った道を、再現行列とともにたどり、「光る君へ」で盛り上がるゆかりの地を訪れることで、式部が目にした景色を眺め、当時に想いをはせていただく機会とします。期間中は菊人形の時期でもあり、自動運転の試験走行も同時期に行います。様々なイベントが重なることに紫式部の効果がより高まることを期待しています。

質疑

【質問】

ウェルビーイング指標について、アンケートはどのように行いましたか、対象や方法など詳細は。

【回答(経営戦略室課長)】

時期については、7～8月にかけて調査を行いました。18歳以上の市民68,000人弱から無作為に1,300人を抽出し、調査票を送付し400件強の回答がありました。回答については、紙またはネットからいただいています。

【質問】

400件の回答を集計した結果が資料2ページ目の内容でしょうか。

【回答(経営戦略室課長)】

主観的指標については、400件強の回答の平均値です。

【質問】

ウェルビーイングの進み具合については、県内では他と比べていかがでしょうか。

【回答(市長)】

県内でウェルビーイング指標を作っているところはありません。そう意味では進んでいるのではないかと思います。

おそらく各自治体で同じようなことをやっても、項目が違ってくるのではないかと思います。今後県内にも広がっていけばと思います。

【質問】

手のひら市役所について、県内では他と比べていかがでしょうか。

【回答(デジタル政策課長)】

他市の状況と比較し、県内9市の中では、だいたい中間くらいに位置しています。

【質問】

9月補正予算案の中での「こどもの居場所」について、市長の説明で「施設の改修」という話が出ました。団体を作るだけでなく、どこかに拠点を作られると推測しますが、いつ、どこに、という詳しい部分は決まっていますか。

【回答(こども未来課長)】

想定では、野尻医院の建物を一部改修し、そこを新たな居場所として事業を進める予定をしています。事業の開始は、令和7年4月からを予定しています。

(市長)現在、そのスペースはブラジル人の方が勉強したり食事をする場所ですが、2階スペースを活用し、こども達をサポートするような場所を作ろうと考えています。食事が作れる台所を整備し、家に帰っても食事が無いこどもがそこで食べられるようにすることも考えています。

【質問】

パーク&ライド駐車場には現時点でも誘導員がいますが、増やすということでしょうか。

【回答(総合政策部理事)】

現在は既決予算の中から捻出していますが、誘導員が通年必要ということがわかりました。通年設置するための費用を補正させていただきました。

6 越前モノづくりフェスタ

概要について、事務局から説明

(市長)今回山本会頭から、「ぜひ地元の子どもたちに来てほしい」という願いがありました。教育委員会や実行委員会と調整し、開催日を金曜日と土曜日にすることにより学校の活動としてこども達に参加できます。地元の企業を知る機会がなかなかないため、モノづくりフェスタに参加することで将来こども達が越前市に住み続けたい、進学して出ても戻ってきたいという記憶に繋がるようなものにしたいと考えています。

【質問】

なぜ小学5年生を対象としたのでしょうか。

【回答(教育長)】

子どもたちは、小学2年生で自分の住む地域のことを学び、小学3、4年生でごみの焼却施設などの社会基盤を学びます。5年生というタイミングが、キャリア教育につなげていくために一番適切だと思い設定しています。また、5年生の子たちは、低学年のときにコロナ禍で「目の前のことに興味を持って行動する」という直接体験が欠けている学年です。そのため、今回授業とタイアップさせていただきました。

【質問】

この授業は、毎年行っていく予定でしょうか。

【回答(教育長)】

毎年行っていきたいと思っています。今年、5年生に参加してもらったあと、どう中学生のキャリア教育につなげていけるかを検討していきたいと考えています。キャリア教育の先に市民のウェルビーイングの捉え方があると思っていますので、義務教育段階からのキャリア教育からどのようにウェルビーイングにつなげていくかを研究していきます。

(市長)

中学生は毎年来てほしいと考えていますが、強制はできません。そのため、今回は教育活動の一環として行います。ただ、できれば小学校の高学年から中学生はみんな来てほしいと思っているので、広報活動に努めたいと考えます。

【質問】

17校全てが授業として行うということでしょうか。全校一斉に向かうのでしょうか。

【回答(教育長)】

17校全てが行います。児童約650人と教員100人で体験の時間を確保する必要があるので、3回に分かれて行きます。1回目は10時～11時40分、2回目が11時30分～13時、3回目が12時30分～14時です。

【質問】

子どもたちはどのように巡るのでしょうか。興味あるところにそれぞれが向かうのでしょうか。

【回答(教育長)】

事前にメニュー表を渡しており、子どもたちの行先ごとに班を編成し、班ごとにブースを巡ります。